

11. Bipartite matching

来嶋 秀治

滋賀大学 データサイエンス学部

BIPARTITE MATCHING

M. Jerrum, A. Sinclair, Approximating the permanent,
SIAM Journal on Computing, **18**(6): 1149–1178, 1989.
(1996年Gödel Prize)

□ 二部グラフ: $G = (U, V; E)$. $|E| = m$ とする.

- 完全マッチングを考えるとときは $|U| = |V| = n$ とする.

□ マッチング: $\mathcal{M} = \{M \subseteq E \mid \forall e, f \in M (e \neq f), e \cap f = \emptyset\}$

- サイズ k マッチング: $\mathcal{M}_k = \{M \mid |M| = k\}$; $\mathcal{M} = \bigcup_{k=0}^n \mathcal{M}_k$
- 完全マッチング: $\mathcal{P} = \mathcal{M}_n$

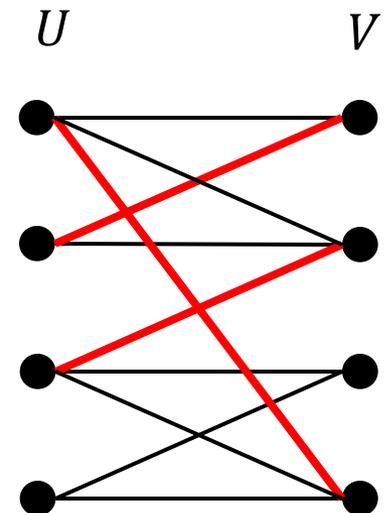
**Q. 二部グラフの完全マッチングの個数を求める
FPRASは存在するか? (1979~2004)**

- \mathcal{P} の多項式時間一様サンプリングができればOK(初日参照)

$\alpha \geq 1$ を想定

とりあえず

□ 目標分布: $\pi(M) = \frac{1}{c} \alpha^{|M|} (M \in \mathcal{M})$



マルコフ連鎖

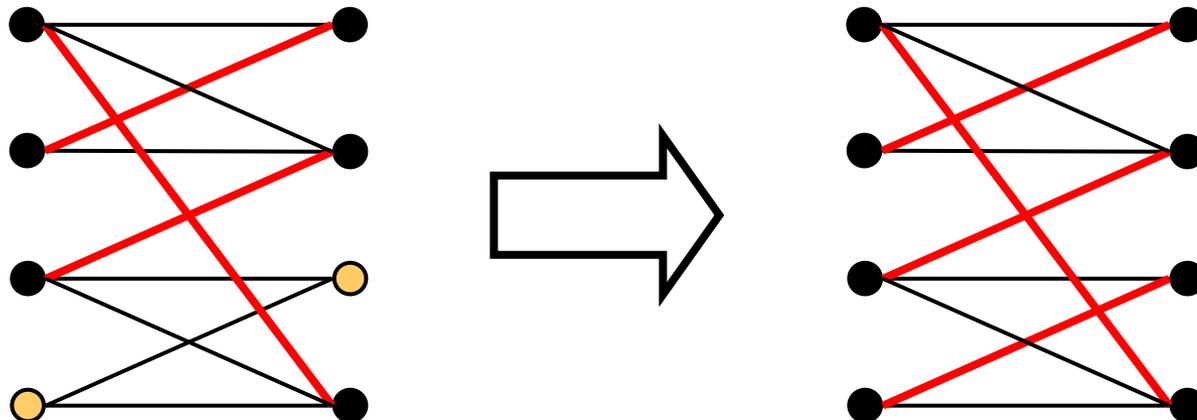
Markov chain for \mathcal{M}

- 確率1/2で現状維持
- $e \in E$ を一様ランダムに選ぶ
 - 追加: 追加できるなら追加
 - 削除: 削除できるなら削除
 - 交換: フリップで済むならフリップ
 - 維持: それ以外は現状維持

マルコフ連鎖

Markov chain for \mathcal{M}

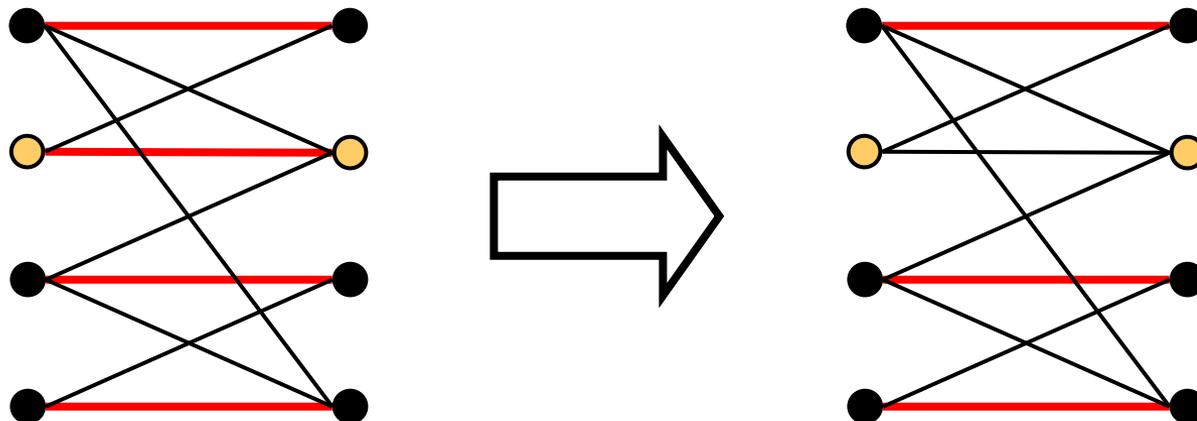
- 確率1/2で現状維持
- $e \in E$ を一様ランダムに選ぶ
 - **追加**: 追加できるなら追加
 - **削除**: 削除できるなら削除
 - **交換**: フリップで済むならフリップ
 - **維持**: それ以外は現状維持



マルコフ連鎖

Markov chain for \mathcal{M}

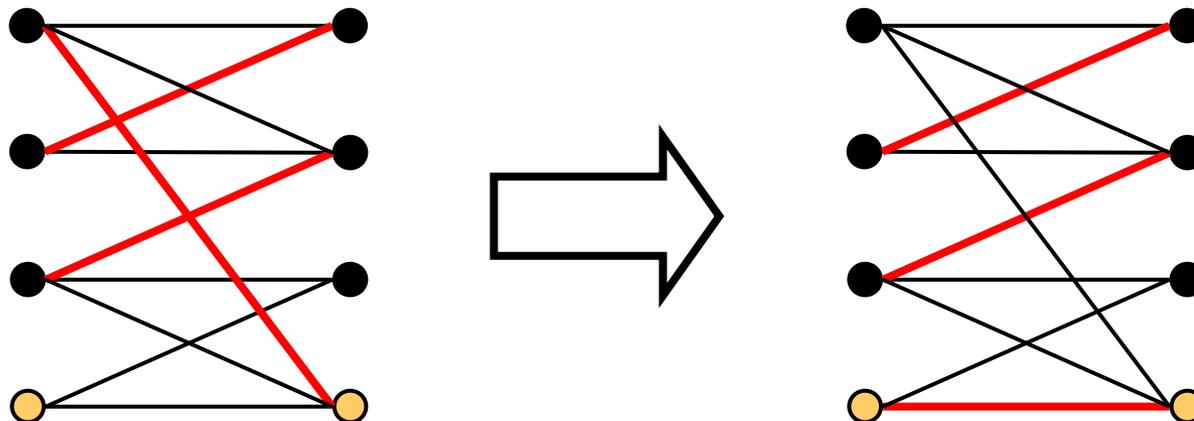
- 確率1/2で現状維持
- $e \in E$ を一様ランダムに選ぶ
 - 追加: 追加できるなら追加
 - **削除**: 削除できるなら削除
 - 交換: フリップで済むならフリップ
 - 維持: それ以外は現状維持



マルコフ連鎖

Markov chain for \mathcal{M}

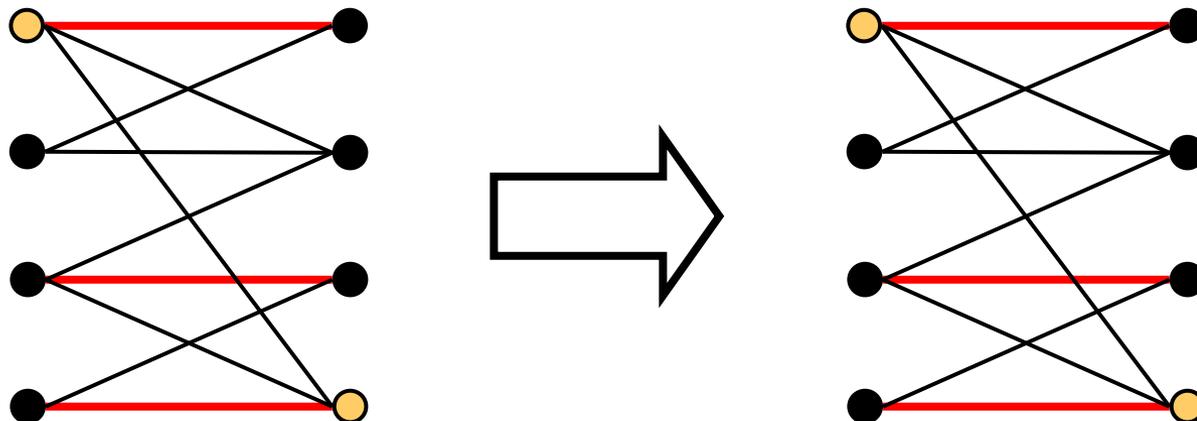
- 確率 $1/2$ で現状維持
- $e \in E$ を一様ランダムに選ぶ
 - 追加: 追加できるなら追加
 - 削除: 削除できるなら削除
 - **交換**: フリップで済むならフリップ
 - 維持: それ以外は現状維持



マルコフ連鎖

Markov chain for \mathcal{M}

- 確率1/2で現状維持
- $e \in E$ を一様ランダムに選ぶ
 - 追加: 追加できるなら追加
 - 削除: 削除できるなら削除
 - 交換: フリップで済むならフリップ
 - **維持**: それ以外は現状維持



Markov chain for \mathcal{M}

- 確率1/2で現状維持
- $e \in E$ を一様ランダムに選ぶ
 - 追加: 追加できるなら追加
 - 削除: 削除できるなら削除
 - 交換: フリップで済むならフリップ
 - 維持: それ以外は現状維持
- Metropolis-Hastingsで遷移 ($\min\{1, \alpha^{|M'| - |M|}\}$)

正確に記述せよ[ex]

証明せよ[ex]

定理 11.1.

マルコフ連鎖は既約で非周期的. 定常分布は $\pi(M) = \frac{1}{c} \alpha^{|M|}$ ($M \in \mathcal{M}$).

定理 11.2.

$$\tau(\epsilon) = O(\alpha^3 mn(n \log \alpha + m + \log \epsilon^{-1}))$$

定理12.2の証明の概略

- [仮定] 頂点を $\{1, \dots, n\}$ とする.
- フロー f : マッチング $x \subseteq E$ からマッチング $y \subseteq E$
 経路 $p(x, y)$ を作つて $p(x, y)$ 上に $R(x, y) = \pi(x)\pi(y)$ 流す
 1. $x \oplus y$ をつくる. 交互道の最小頂点番号の順番に C_1, \dots, C_k とする.
 2. 削除, 交換, 追加で遷移する. 枝の数が減らないように注意する.
- エンコード

$$\eta_{z,z'}(x, y) = x \oplus y \oplus (z \cup z') \setminus \{e_1\}$$

- Claim 1: $\eta_{z,z'}$ は単射
 - 証明: $w = \eta_{z,z'}(x, y)$ のdecode $\eta_{z,z'}^{-1}(w) = (x, y)$ を確認する.

$$\checkmark w \oplus (z \cup z') = x \oplus y \setminus \{e_1\}$$

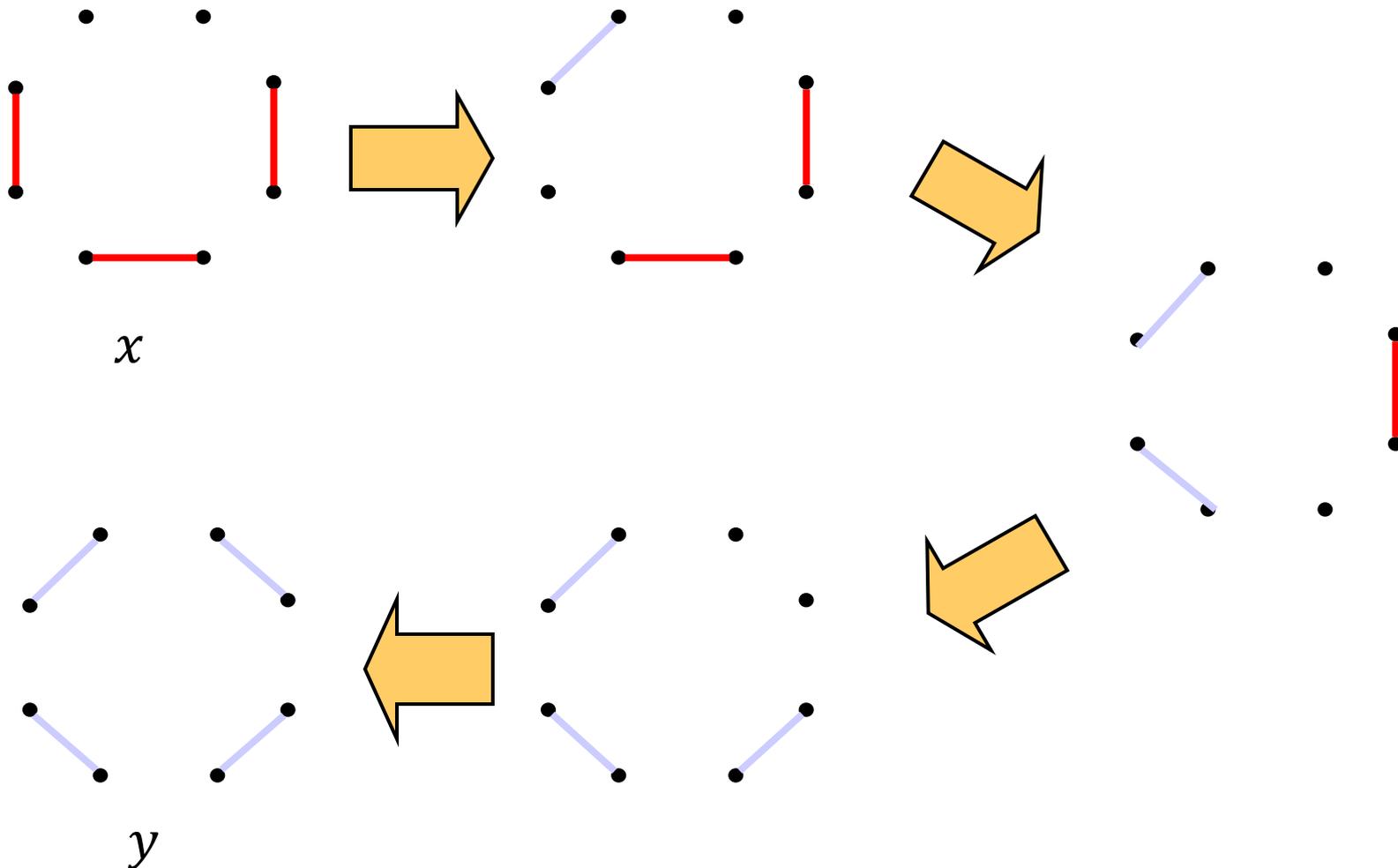
- Claim 2: $\pi(x)\pi(y) \leq \alpha^2 \pi(z)\pi(\eta_t(x, y))$

- 証明: $|x| + |y| \leq |z| + |\eta_t(x, y)| + 2$ より

$$\frac{\pi(z)\pi(\eta_t(x, y))}{\pi(x)\pi(y)} = \frac{\alpha^{(|z|+|\eta_t(x, y)|)}}{\alpha^{(|x|+|y|)}} \geq \alpha^2$$

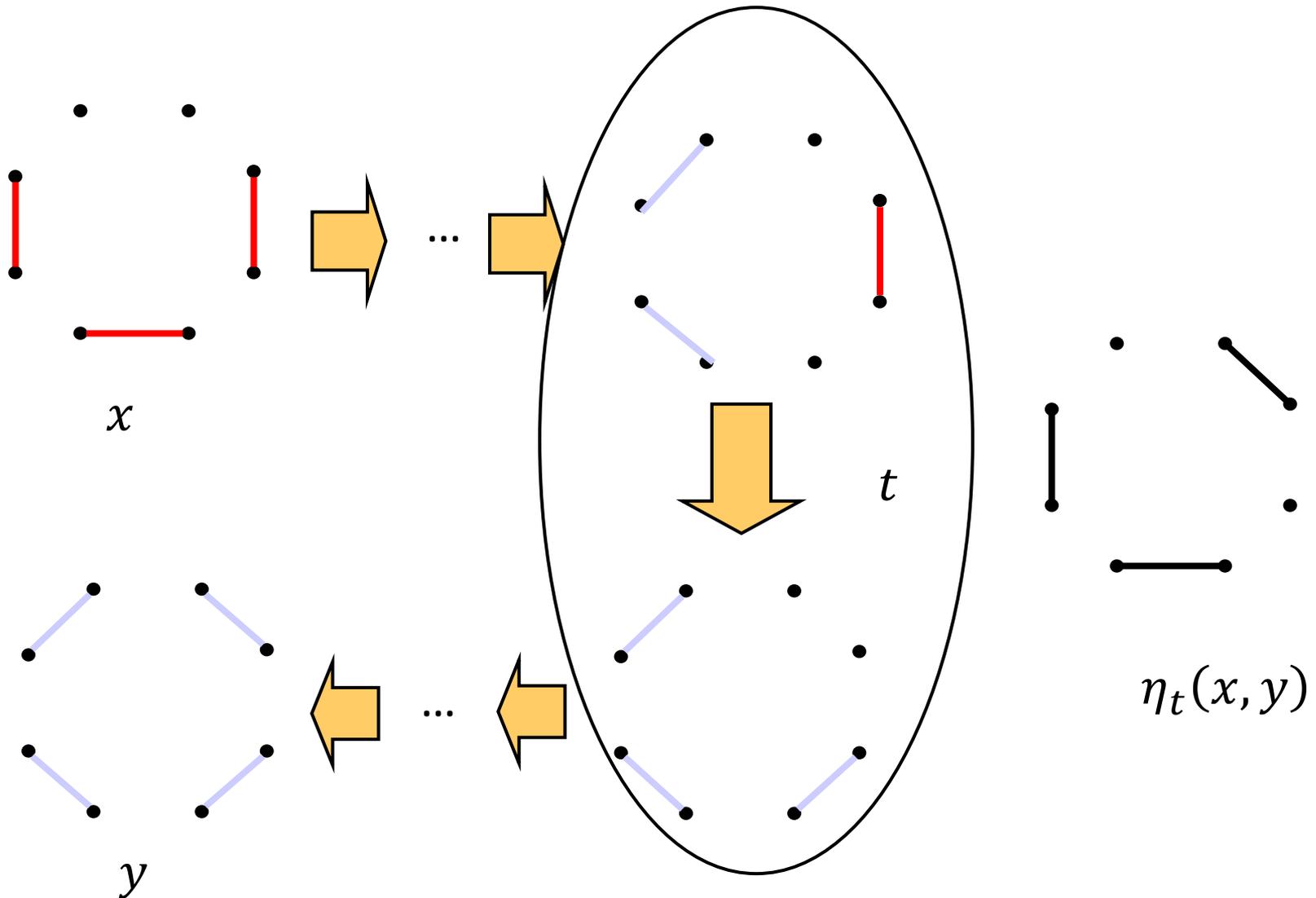
Canonical path (開路)

閉路と開路で展開の向きを変える



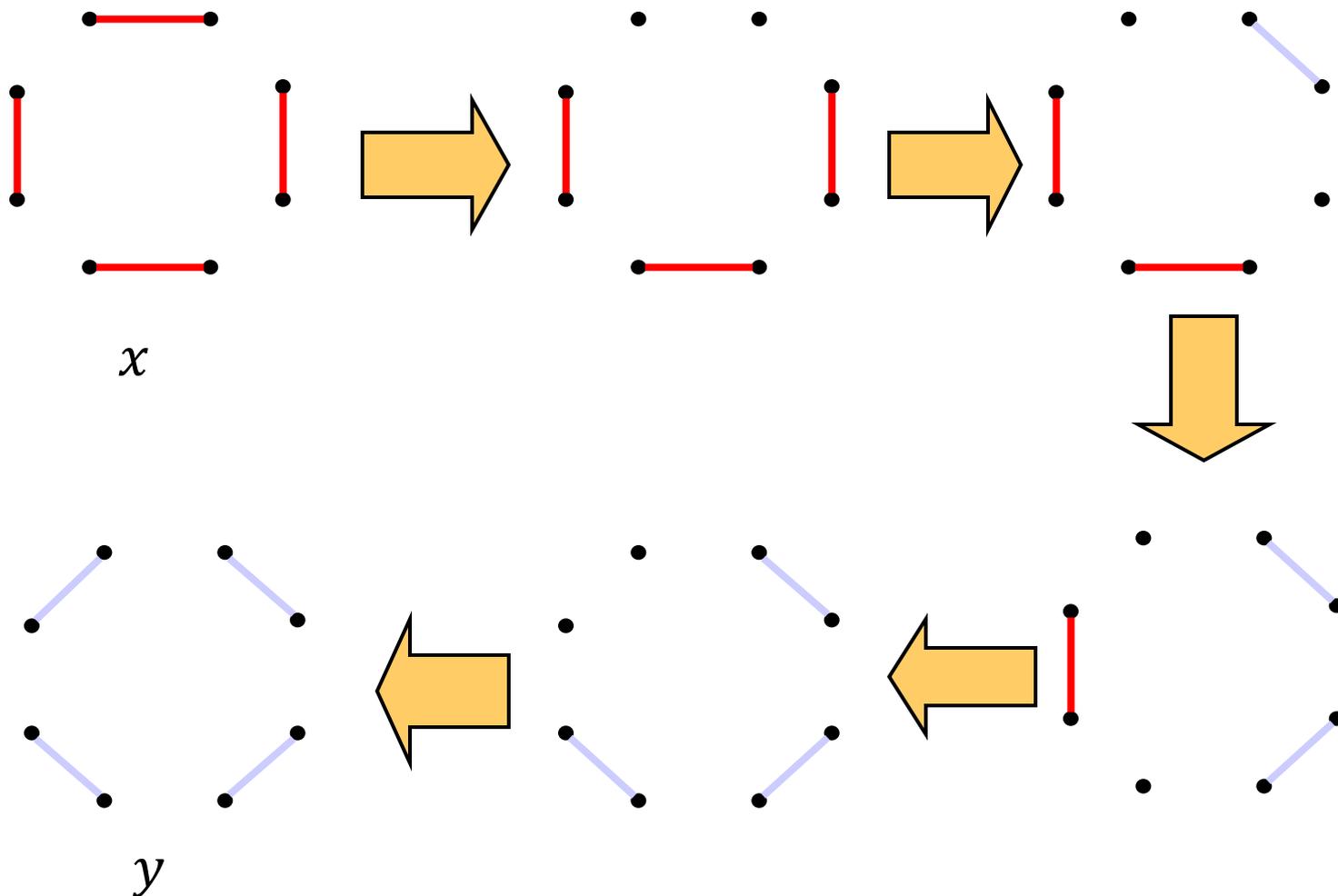
encoding

$$\eta_{z,z'}(x,y) = x \oplus y \oplus (z \cup z') \setminus \{e_1\}$$



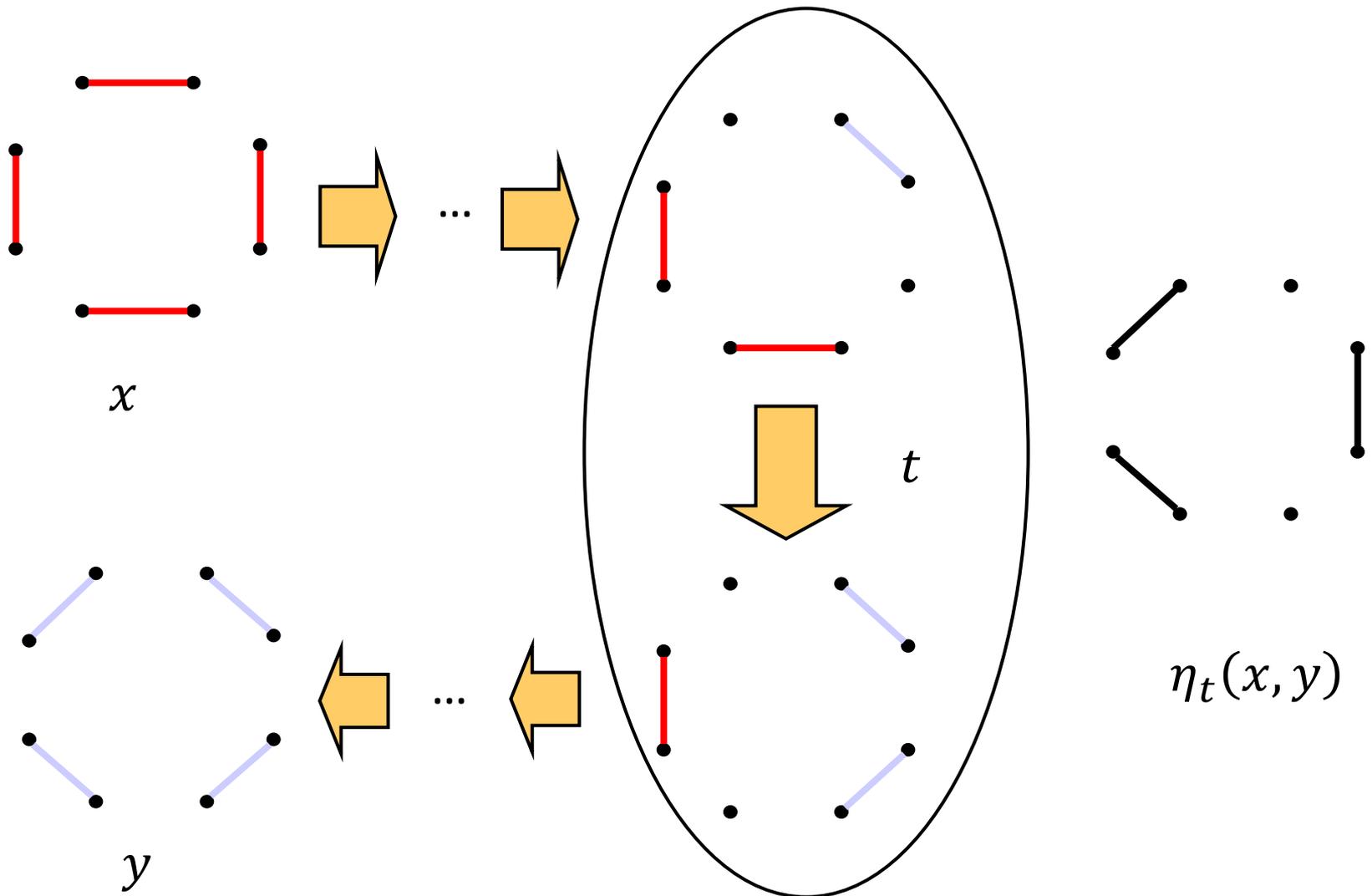
Canonical path (閉路)

閉路と開路で展開の向きを変える



encoding

$$\eta_{z,z'}(x, y) = x \oplus y \oplus (z \cup z') \setminus \{e_1\}$$



- $P(z, z') \geq \frac{1}{2\alpha m}$ に注意して, 定理を使うと

$$\rho(f) \leq \beta \frac{1}{P(z, z')} \leq \alpha^2 2\alpha m = 2\alpha^3 m$$
- よって

$$\frac{1}{1 - \lambda_2} \leq \rho(f) l(f) \leq 2\alpha^3 mn$$
- $\pi_{\min} \geq \frac{1}{\alpha^n} \frac{1}{2^m}$ ($\alpha \geq 1$ の場合), mixing time は

$$\tau \leq \frac{\log \frac{1}{\pi_{\min}}}{1 - \lambda_2} \leq 2\alpha^3 mn \log(\alpha^n 2^m)$$

$$= 2\alpha^3 mn(n \log \alpha + m) = \text{poly}(n, m, \alpha)$$

Markov chain for \mathcal{M}

- 確率1/2で現状維持
- $e \in E$ を一様ランダムに選ぶ
 - 追加: 追加できるなら追加
 - 削除: 削除できるなら削除
 - 交換: フリップで済むならフリップ
 - 維持: それ以外は現状維持
- Metropolis-Hastingsで遷移 $\left(\min\left\{1, \alpha^{|M'|-|M|}\right\}\right)$

定理 11.2. (再掲)

$$\tau(\epsilon) = O\left(\alpha^3 mn(n \log \alpha + m + \log \epsilon^{-1})\right)$$

- $|\mathcal{M}|$ のFPRASを設計せよ.
- $\mathcal{M}_n \cup \mathcal{M}_{n-1}$ 上に制限したマルコフ連鎖を設計せよ.
 $\tau = O(a^3 mn(n \log a + m))$ を示せ.
- $|\mathcal{M}_n \cup \mathcal{M}_{n-1}|$ のFPRASを設計せよ.

演習

完全マッチングの個数

- $|\mathcal{M}_n \cup \mathcal{M}_{n-1}|$ はFPRASの設計可能.
- $|\mathcal{M}_n|$ のFPRAS ?

命題 11.3.

$\alpha = 1$ としたとき, $\mathcal{M}_n \cup \mathcal{M}_{n-1}$ 上で $X \sim \pi$ が

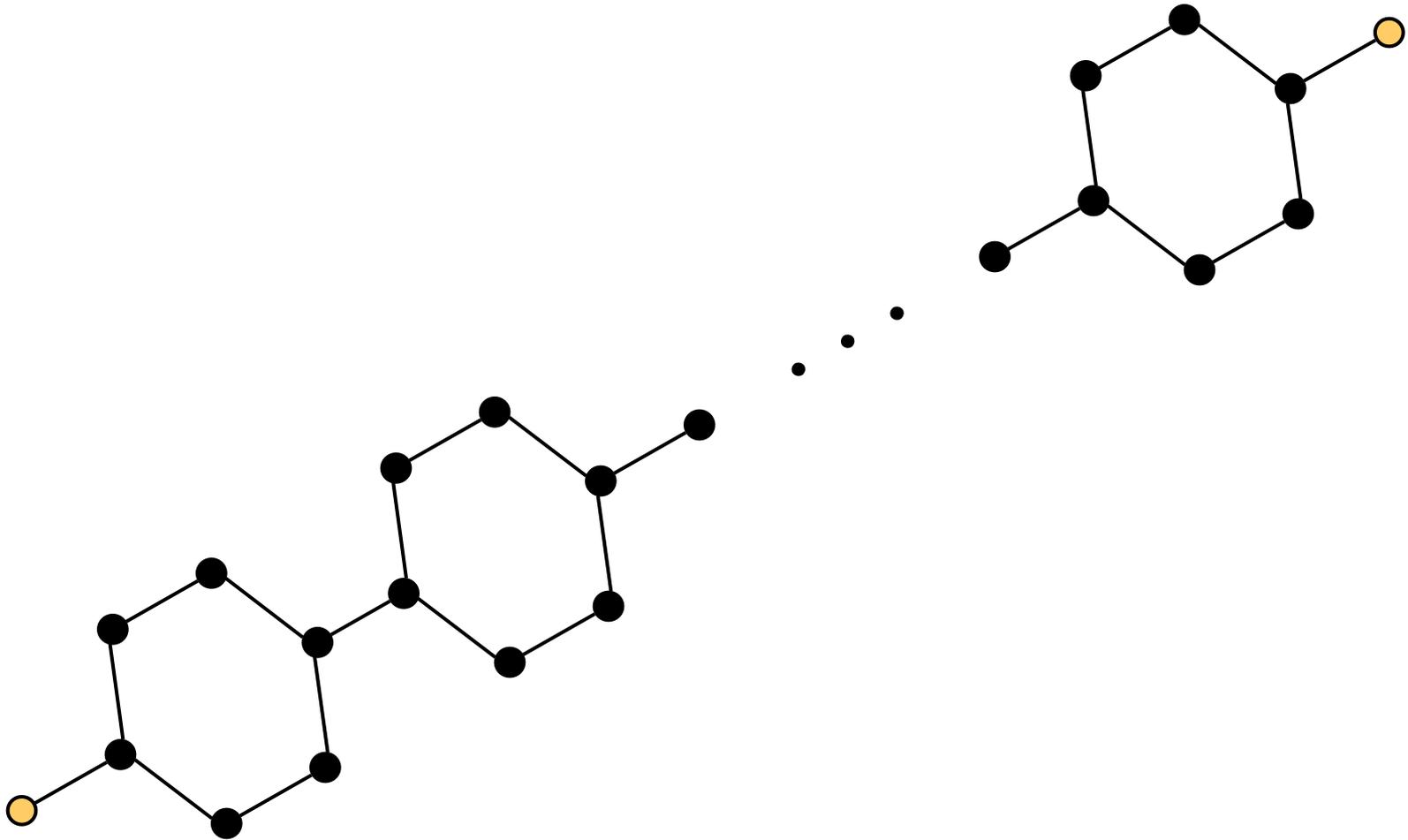
$$\Pr[X \in \mathcal{M}_n] \leq 2^{-\frac{n-2}{6}}$$

となる例が存在する.

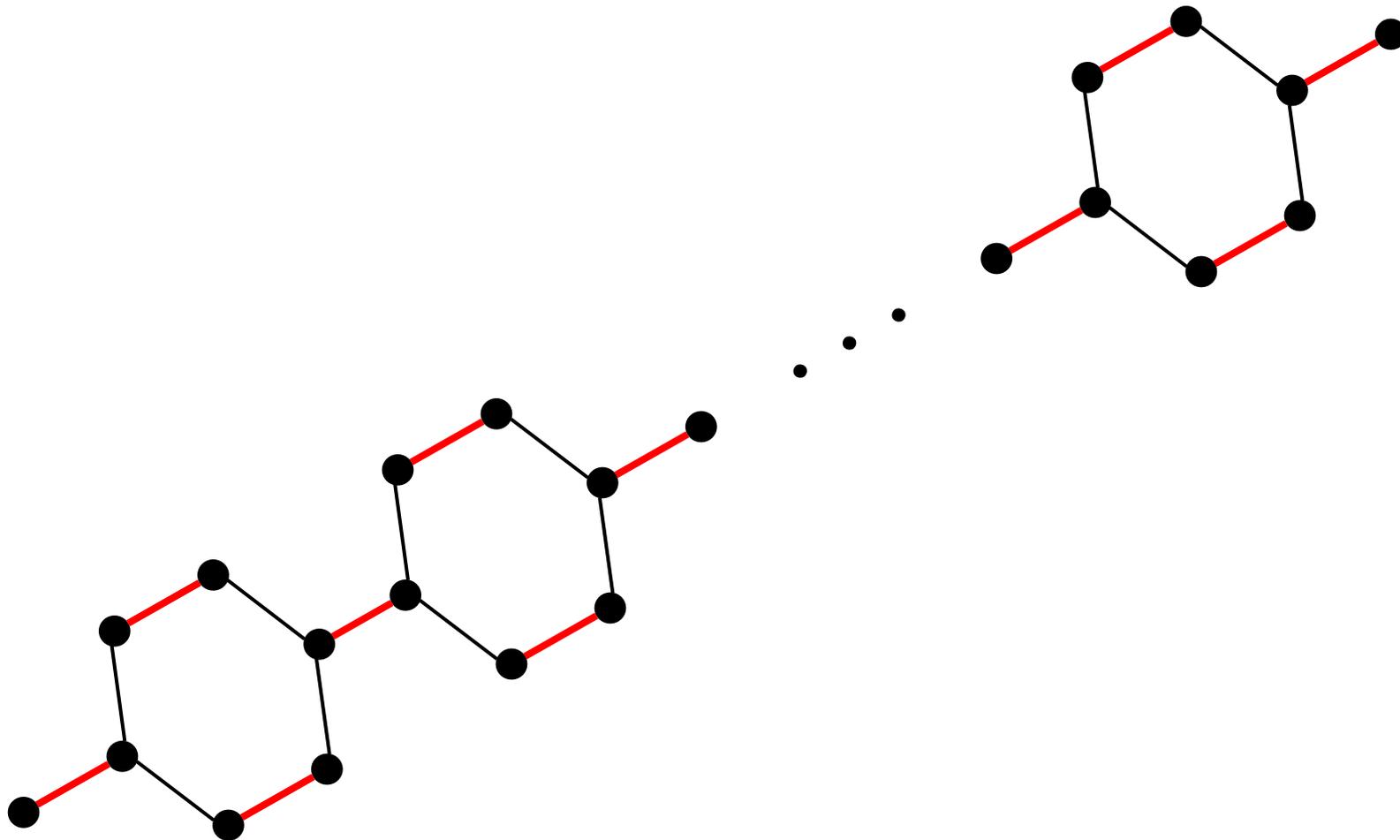
$2^{-\frac{n-2}{4}}$ に改善可[ex]

つまり, $|\mathcal{M}_n|$ のFPRASが直接は導けない.

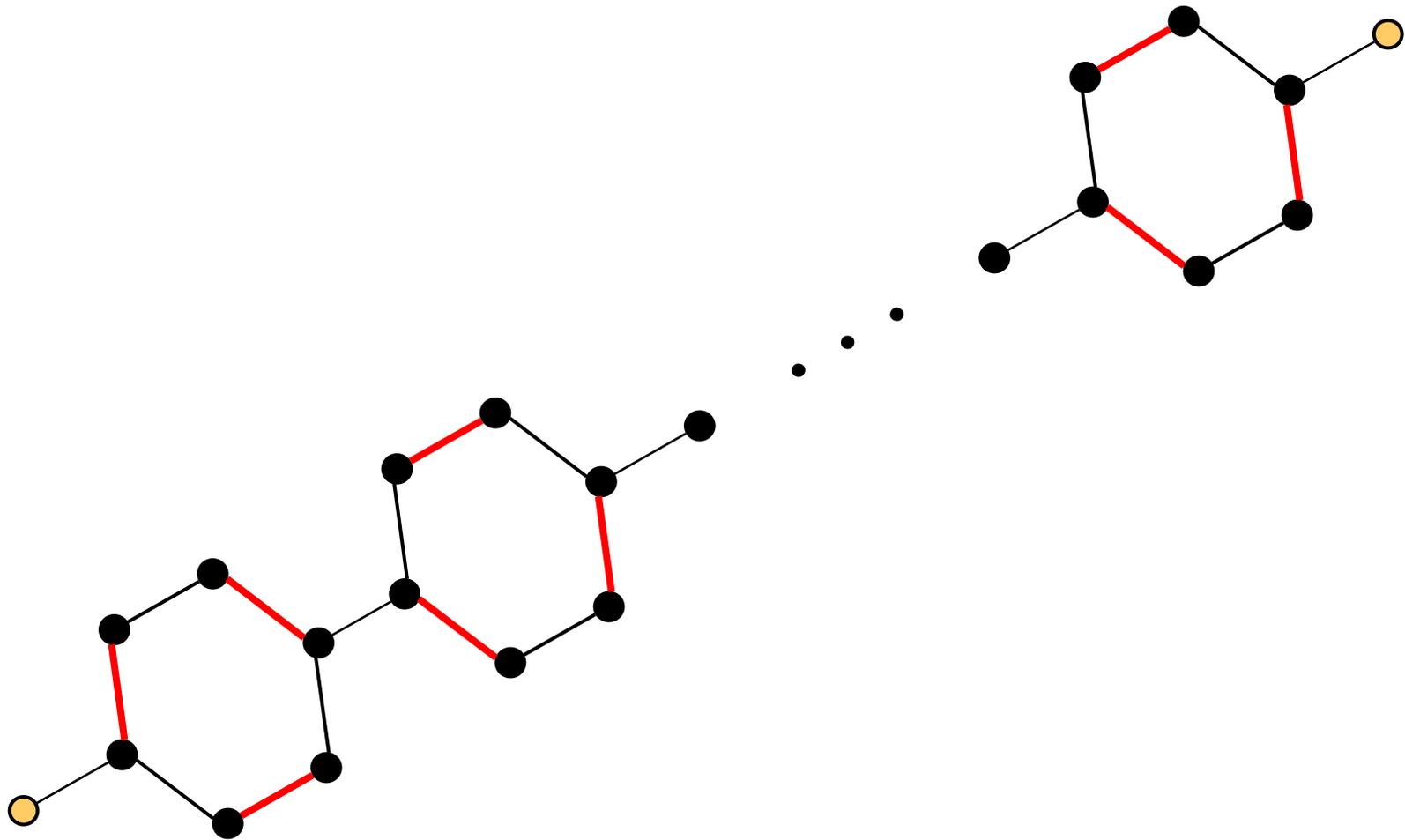
$$\frac{|\mathcal{M}_n|}{|\mathcal{M}_n \cup \mathcal{M}_{n-1}|}$$

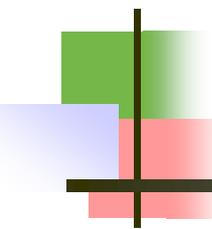


$$\frac{|\mathcal{M}_n|}{|\mathcal{M}_n \cup \mathcal{M}_{n-1}|}$$



$$\frac{|\mathcal{M}_n|}{|\mathcal{M}_n \cup \mathcal{M}_{n-1}|}$$





おわり
